



## 講演会ご案内

# 日米の災害報道比較と 今後の気象当局の取り組み

HOW DO THE US/JAPAN MEDIA DIFFER IN DISASTER COVERAGE, AND HOW ARE GOVERNMENT WEATHER AGENCIES EVOLVING WITH INCREASING NATURAL DISASTERS?

多くの災害に見舞われた平成。異常気象と言われるゲリラ豪雨などの大雨被害が、日本でも米国でもこの30年増え続けています。人命を守り、生活を守るために、気象当局に求められるものは何か。気象予報や災害報道の日米比較を含め、災害を経て進化する日米それぞれの気象当局の防災・減災のための取り組みや日米の協力について、マンスフィールド・フェローとして来日中の米国の気象学者が話します。

**講師：**イアン・モリソン氏 米国海洋大気庁 気象学者

**日時：**2019年5月23日(木) 午後2時40分～午後4時40分

**場所：**東北大学理学研究科 合同C棟 青葉サイエンスホール

(地下鉄東西線青葉山駅北1出口よりすぐ、理学研究科合同C棟2階C201)

地図：<http://www.sci.tohoku.ac.jp/campusmap/kita-aobayama/>

**司会進行役：**岩崎俊樹 東北大学大学院理学研究科 特任教授

**言語：**英語 (日英逐次通訳付き) **定員：**117名 (事前申し込み不要)



**講師プロフィール：**イアン・モリソン Ian Morrison

米国気象局ホノルル気象台に所属し、気象注意報・警報の提供業務、航空・海洋・船舶予報業務、メディア広報業務、米国気象局が推進する Weather Ready Nation のスローガンのもとでの関係防災機関との連携業務、サイクロン・ハリケーン等に対処する緊急指令チーム業務などに従事した経験がある。今回、米国のマンスフィールドフェローとして来日し、2018年9月から2019年4月まで、気象庁にて、日米の相互理解促進と連携強化のため、気象業務の比較調査を実施。気象庁の予報及び防災業務を調査するとともに、自治体等関係機関との連携を含む地域の気象防災業務について調査している。

お問合せ：TEL. 011-641-1849 在札幌米国総領事館 寺下 (月～金 09:00-17:30)  
不在の場合は留守電 (英語での案内が流れます) にメッセージを残してください。